




外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/08/03

北半球は夏季休暇シーズンへ

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円		上昇の反動を警戒 予想レンジ: 85.500~89.750円	2-3
NZドル/円		近くて遠い84円 予想レンジ: 79.600~84.000円	4-5
ランド/円		不信任投票に注意 予想レンジ: 7.900~8.700円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



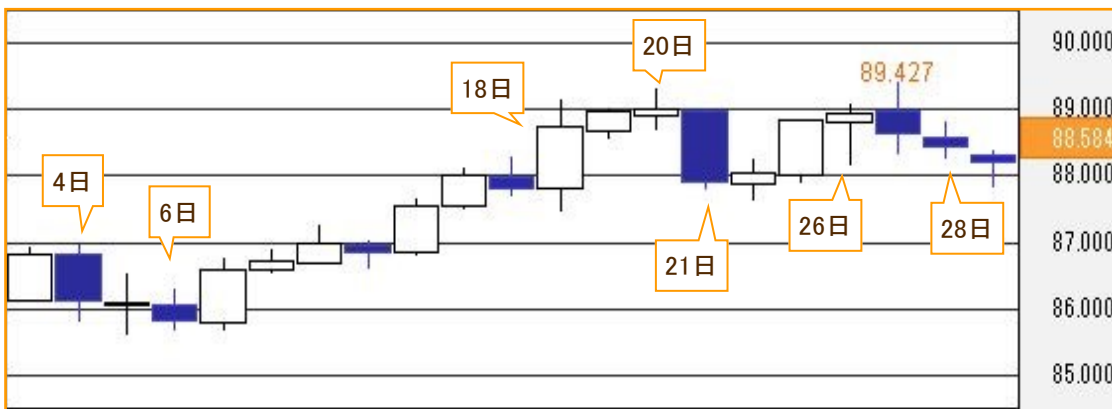
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 7月の推移

AUD/JPY

7月の豪ドル/円は、85.670～89.427円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.1%の上昇（豪ドル高・円安）となった。世界的に金融政策の正常化が進む中、日銀だけは大規模緩和を維持するとの見方から円の下落基調が続く中、米国の追加利上げに対する懐疑的な見方が広がるとドルも下落。そうした中、先進国通貨かつ高金利国通貨である豪ドルに上昇圧力がかった。豪中銀（RBA）の首脳による豪ドル高けん制の効果も薄く、27日には約1年8カ月ぶりの高値となる89.427円まで上値を伸ばした。なお、7月の豪ドルは米ドルに対して約4.1%も上昇して約2年2カ月ぶりの高値を付けた。



四本値

OPEN	86.161
HIGH	89.427
LOW	85.670
CLOSE	88.214

4日	豪5月小売売上高が前月比+0.6%と予想(+0.2%)を大きく上回った事を受けて一時86.971円まで上昇したが、RBAが予想通りに政策金利の据え置き(1.50%)を決定し、声明文を発表すると豪ドル売りに転じた。声明文は「豪ドル高が経済的な調整を複雑化する」「賃金の伸びは依然として低迷しており、これはしばらくの間続くものと思われる」「賃料の伸びは20年間で最も鈍い」などと、前月とほぼ同様の見方を示した。米国やユーロ圏などと同じく、RBAも緩和的金融政策の正常化に向けた前向きな姿勢を示すとの期待があったため、失望売りが強まった。
6日	豪5月貿易収支が24.71億豪ドルの黒字となり、黒字額が予想(10.00億豪ドル)を上回った事を受けて豪ドルが上昇。ただ、その後はユーロ圏の長期金利上昇などを嫌気して欧米の株価が下落したため反落した。
18日	RBA議事録が公表され、労働市場の改善や堅調な公共投資、家計消費が上向いている事を背景に、比較的明るい経済見通しが示された。また、中立金利(緩和的でも引き締めのでもない中立的な金利)は3.5%前後との推計値を示した事を受けて利上げ期待が浮上すると豪ドル買いが強まった。
20日	豪6月雇用統計は、失業率が5.6%、就業者数は1.40万人増と概ね予想(5.6%、1.50万人増)と一致。ただ、就業者数の内訳で正規雇用が6.20万人の大幅増(非常勤雇用者は4.80万人減)となった事から、豪ドル買いが優勢となった。
21日	デベルRBA副総裁が「海外の利上げの動きに自動的に追随する理由はない」「世界的な低金利が豪ドルの押し上げ圧力になっている」などと発言した事が伝わると豪ドル売りが優勢となった。その後、「7月の石油輸出国機構(OPEC)加盟国の原油生産量が増加する見通し」との報道を受けてNY原油先物が下落。NYダウ平均も軟調に推移する中、豪ドルにも下落圧力がかった。
26日	豪4-6月期消費者物価指数が前年比+1.9%に留まり市場予想(+2.2%)を下回ると豪ドル売りが活発化。なお、RBAが重視する基調インフレ率は前年比+1.80%となり、RBAのインフレ目標を下回る水準ながらも市場予想(+1.75%)を小幅に上回った。その後も、ロウRBA総裁が「世界の他の中銀に金利で歩調を合わせる必要はない」「2%の平均賃金成長では2.5%のCPIを生み出すのに苦労するだろう」「豪ドルがやや下落すれば、もっとよい」などと述べた事が伝わると豪ドルは続落した。
28日	豪4-6月期生産者物価指数は前年比+1.7%と1-3月期の+1.3%を上回ったが、豪ドルの反応は限定的。NY市場に入り、北朝鮮が大陸間弾道ミサイル(ICBM)の発射実験を実施すると、豪ドル売りが強まった。なお、翌29日にトランプ大統領はツイッターで「中国には非常に失望した」、「ただ対話をするだけで北朝鮮に対して何もしていない」などと北朝鮮の後ろ盾である中国の姿勢を非難した。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	20056.32
HIGH	20200.88
LOW	19856.65
CLOSE	19925.18

NYダウ平均

OPEN	21392.30
HIGH	21929.80
LOW	21279.30
CLOSE	21891.12

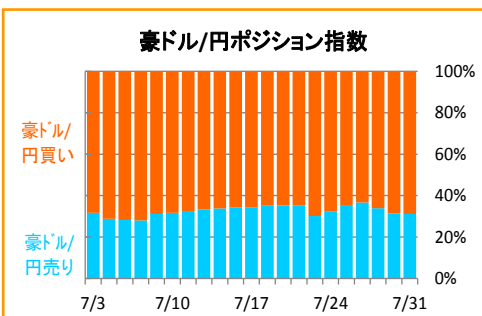
上海総合指数

OPEN	3191.998
HIGH	3276.946
LOW	3139.503
CLOSE	3273.028

豪10年債利回

OPEN	2.700%
HIGH	2.784%
LOW	2.619%
CLOSE	2.678%

7月のポジション動向



8月の豪州・中国の注目材料

- ・7月中国/財新製造業PMI(1日)
- ・RBA政策金利発表(1日)
- ・6月豪住宅建設許可(2日)
- ・6月豪貿易収支(3日)
- ・6月豪小売売上高(4日)
- ・RBA四半期金融政策報告(4日)
- ・7月中国貿易収支(8日)
- ・7月中国消費者物価指数(9日)
- ・ロウRBA総裁、議会証言(11日)
- ・7月中国鉱工業生産(14日)
- ・RBA議事録(15日)
- ・7月豪雇用統計(17日)
- ・7月豪住宅建設許可(30日)
- ・8月中国製造業PMI(31日)

8月の見通し

8月の豪ドル/円相場は、やや上値が重い展開となりそうだ。①豪中銀(RBA)が緩和的金融政策の維持を示唆、②RBAが豪ドル安誘導スタンスを強めている、③米国と中国が北朝鮮への対応を巡り対立、などが豪ドルの重しとなるだろう。一方、米国株が史上最高値を更新するなど、市場のリスクセンチメントが良好な事は豪ドルの支援材料だ。ただ、8月は北半球の夏季休暇シーズンにあたる事などから、リスク志向がさらに高まる事は考えにくい。なお、昨年、一昨年と2年連続でNYダウ平均は8月に下落している。4日のRBA四半期金融政策報告や11日のロウRBA総裁の議会証言などで再確認したいところだが、①や②のスタンスに変化がなければ、6-7月の上昇(最大で約9.3%)に対する反動が出てもおかしくないだろう。この間の上げ幅の半値押し(85.60円前後)が調整のメドとなりそうだ。また、③については、米政権が早々に中国の不正貿易に対する制裁の発動を可能にするための調査に入るとの報道もある。中国の弱材料は豪ドル売り材料になりやすいため、続報には注意しておきたい。(神田)

(予想レンジ:85.500-89.750円)

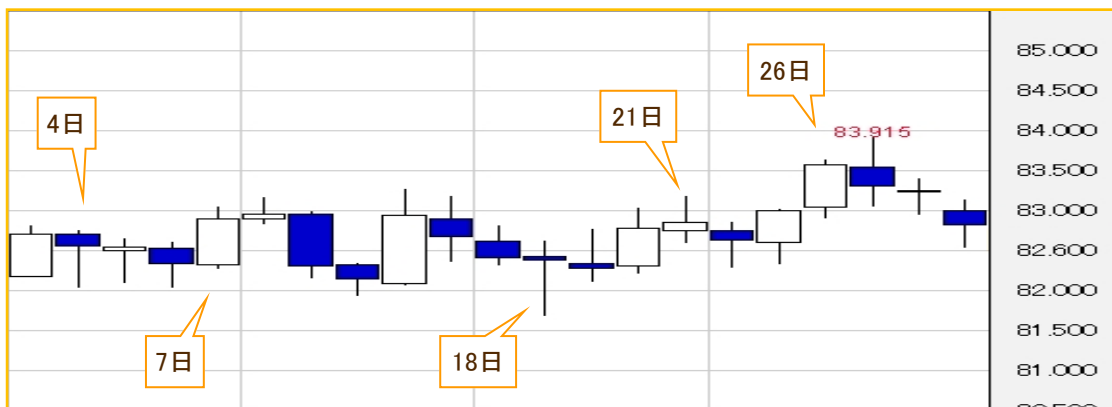
[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

NZドル/円 7月の推移

NZD/JPY

7月のNZドル/円相場は81.687～83.915円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.5%の小幅上昇(NZドル高・円安)となった。

リスク・オンの流れを引き継いでスタートするも、NZ4-6月期のインフレ率が予想を下回る伸びに留まったことなどから、NZ準備銀行(RBNZ)の早期利上げ期待が後退。円、NZドル共に決め手となる材料を欠く中、株価の上昇に対しても反応は鈍く、NZドル/円は方向感に乏しい展開が続いた。結果、高安わずか2円半弱と2月以来の小動きとなった。



四本値

OPEN	82.183
HIGH	83.915
LOW	81.687
CLOSE	82.817

4日	NZ乳業大手フォンテラの乳製品入札で、GDT指数が前回比-0.4%であった。
7日	日銀が2月以来となる指値オペ(利回り表示で0.110%で無制限に買い入れ)を実施、国債買い入れも増額(残存5年超10年以下を、前回比で500億円増額)した。緩和継続姿勢が示された事から、円売りが優勢となった。米7月雇用統計の好結果を好感してNYダウ平均が上昇した事も追い風となり、NZドル/円は83.00円台まで値を上げた。
18日	NZ4-6月期消費者物価指数は、前期比±0.0%、前年比+1.7%と予想(+0.2%、+1.9%)を下回った。これを受けてRBNZが当面の間政策金利を据え置くとの見方が強まると共にNZドル売りが優勢となる場面が見られた。なお、フォンテラの乳製品入札で、GDT指数が前回比+0.2%上昇した。
21日	ジョイスNZ財務相が「NZドルは強いNZ経済を反映」「NZ企業は現行水準のNZドルに上手く対応している」などと発言すると、NZドル/円は値を上げた。
26日	NZ6月貿易収支は2.42億NZドルの黒字(予想:1.50億NZドルの黒字)であった。マクダーモットRBNZ総裁補が「NZドルが下落すれば経済成長のリバランスの一助になる」と発言した。

NZD / JPY

日経平均

OPEN	20056.32
HIGH	20200.88
LOW	19856.65
CLOSE	19925.18

NYダウ平均

OPEN	21392.30
HIGH	21929.80
LOW	21279.30
CLOSE	21891.12

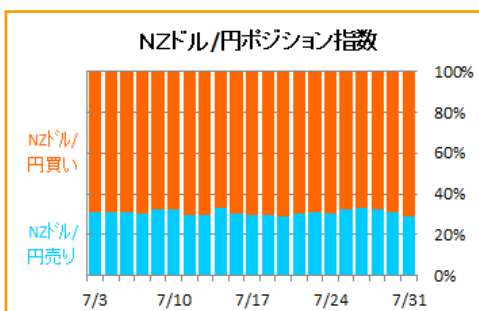
上海総合指数

OPEN	3191.998
HIGH	3276.946
LOW	3139.503
CLOSE	3273.028

NZ10年債利回

OPEN	2.974%
HIGH	3.050%
LOW	2.901%
CLOSE	3.002%

7月のポジション動向



8月のNZの注目材料

- ・NZフォンテラ入札(1日、15日)
- ・4-6月期NZ失業率(2日)
- ・RBNZインフレ期待(7日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート(10日)
- ・7月NZ企業景況感(PMI、11日)
- ・4-6月期NZ小売上高指数(14日)
- ・4-6月期NZ生産者物価指数(17日)
- ・7月NZ貿易収支(24日)
- ・7月NZ住宅建設許可(30日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

8月の見通し

10日にRBNZが政策金利を発表する。足元のインフレが落ち着いている事や、6月に発表されたGDPが予想を下回る伸びに留まった事などから、政策金利の据え置き(1.75%)が市場のコンセンサスとなっている。こうした中、次の一手を探るべく声明が注目されると見る。なお、NZ国内の事情として、総選挙(9月23日)やウィーラー総裁退任(9月26日予定)が控えていることから、よほどの事がない限り利上げを急ぐ必要はないだろう。

テクニカル面では、7月は83円台後半まで値を上げるも、2015年後半以降上値抵抗となっている84円を前に失速した事で、目先は調整が先行しやすいと見る。週足の一目均衡表の転換線(執筆時81.153円)を割ると、基準線(同、79.796円)に向けた一段安も考えられる。(川畑)

(予想レンジ: 79.600~84.000円)

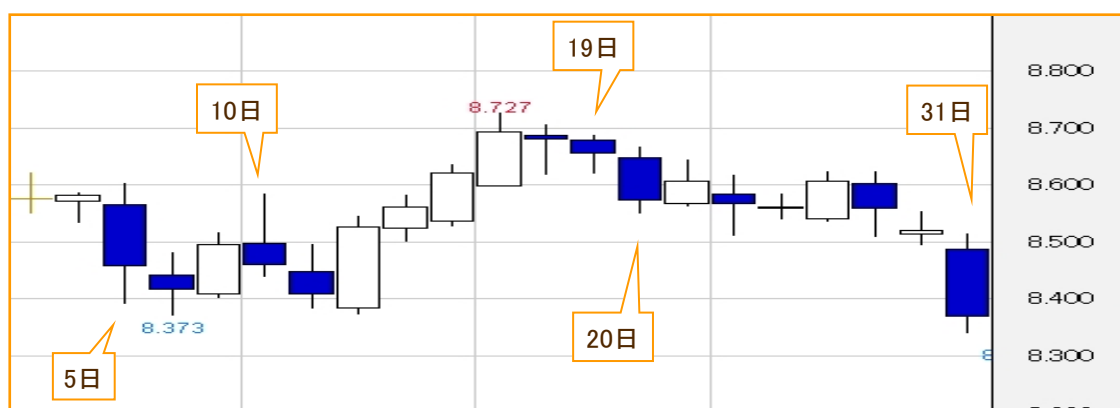
ZAR/JPY

ランド/円 7月の推移

7月のランド/円相場は8.342～8.727円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.5%の下落(ランド安・円高)となった。

南ア与党アフリカ民族会議(ANC)が南ア準備銀行(SARB)の国有化を提案するなど、前月の南ア護民官の提言(SARBの使命を、通貨の信任維持から経済成長の促進に変更)に続いて中央銀行の独立性が脅かされた事から、ランドは上値の重い展開となった。

その後はNYダウ平均が史上最高値を更新(当時)するなどリスク・オンのムードの中、17日に3月以来の高値となる8.727円まで値を上げるも一時的。SARBの予想外の利下げや、格付け会社ムーディーズのレポートなどが重石となり、31日に8.342円まで再び下落した。



四本値

OPEN	8.577
HIGH	8.727
LOW	8.342
CLOSE	8.371

5日	南ア与党ANCが、SARBの国有化を提案。これに反応してランドが売られた。
10日	南ア護民官が、中銀の使命変更提言に対する(SARB総裁と財務相からの)異議申し立てに反対しないと表明した
19日	南ア6月消費者物価指数は前年比+5.1%と予想(+5.2%)を下回った。なお、南ア5月小売売上高は前年比+1.7%と予想(-0.3%)外の上昇となった。
20日	SARBは理事会で、政策金利を0.25%引き下げ、6.75%にすることを決定。クガニャゴ総裁は利下げ理由について、経済成長が弱含む中で物価見通しが改善したためとの見方を示した。また、成長率見通しを2017年が0.5%、18年は1.2%と、19年は1.5%と、5月時点(1.0%、1.5%、1.7%)から引き下げた。金利据え置き予想が多かった中での利下げを受け、ランド/円は8.50円台まで下落した。
31日	格付け会社ムーディーズが南アについて「中央銀行への政治的圧力が強まる可能性が高い」との分析結果を公表した事が重石となり、ランド売りが活発化。南ア6月貿易収支は107億ランドの黒字と予想(94億ランドの黒字)を上回ったがランド売りの流れを止められなかった。

日経平均

OPEN	20056.32
HIGH	20200.88
LOW	19856.65
CLOSE	19925.18

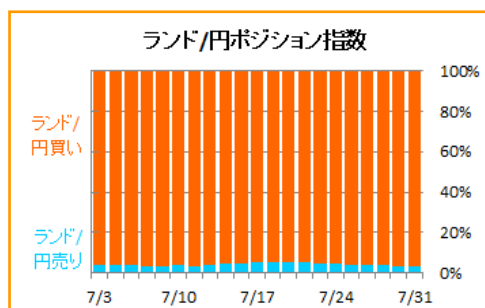
NYダウ平均

OPEN	21392.30
HIGH	21929.80
LOW	21279.30
CLOSE	21891.12

N Y 金

OPEN	1241.70
HIGH	1277.30
LOW	1204.00
CLOSE	1273.40

7月のポジション動向



8月の南アフリカの注目材料

- ・4-6月期南ア失業率(7日)
- ・ズマ大統領不信任投票(8日)
- ・6月南ア小売売上高(16日)
- ・7月南ア消費者物価指数(23日)
- ・7月南ア生産者物価指数(31日)
- ・7月南ア貿易収支(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

8月の見通し

8日に南アフリカで、ズマ大統領の不信任投票が行われる予定である。投票の結果、不信任ならランド高、信任ならばランド安の反応が予想される。現時点では投票方法について明らかとなっていないが、仮に記名式投票となれば党内での処分を恐れて不信任案に賛成しない議員が増えることが予想され、ランドが売られる事も考えられる。投票方法も焦点となるだろう。また、南ア国内経済が冴えない中で追加利下げの思惑も根強い為、7月消費者物価指数(23日)に注目したい。

テクニカル面では、8.70円前後で上値重く推移した後、2016年6月と2017年4月の安値を結ぶサポートラインを割り込んでおり、下値模索の機運が高まりつつある。週足の一目均衡表の雲上限(今月は8.20円前後)を割ると、2017年4月安値(7.895円)に向けた一段安もあるだろう。(川畑)

(予想レンジ: 7.900~8.700円)